



新サービスで大口受注も獲得。 後継者たちのさらなる成長に期待

課題

独自のパッケージ技術で 非常用毛布の開発を目指す

古くから繊維産業で栄えてきた兵庫県北播磨地域。足立織物株式会社は、昭和25年の創業以来、先染め織物を製造してきた。昭和42年にハンカチの製造販売を始めてギフト市場に参入、平成9年からはタオルの輸入販売と業容を拡大してきたが、バブル崩壊以降は生産拠点の海外化や国内需要の低下などにより、既存事業は苦境に立たされていた。

同社の強みは、独自の真空圧縮技術(特許技術)とパッケージ技術をもつことだ。これは、タオルや毛布をパッケージする際、圧縮後の体積を7分の1にでき、かつ、パッケージの表面・側面をフラットに仕上げることが可能というものだ。

多可町商工会の支援のきっかけは、平成24年に商工会のセミナーに参加していた経営者の長女と三女から「経営について学びたい」と相談を受けたことだ。伴走支援を進めるなかで、東日本大震災に影響を受け、「技術を活かして非常用圧縮毛布を開発したい」という話を聞き、当時の経営状況から中期事業計画の策定が不可欠と判断。専門家を派遣して経営革新計画の策定支援をスタートした。

支援

補助金活用で製品開発や 販路開拓を支援

こうして同社は、平成25年に経営革新計画の認定を受け、商工会ではものづくり補助金の申請を支援。真空圧縮パック加工を実現するための装置を新調するなどして非常用圧縮毛布のコンパクト化に成功。A4サイズでデスクの引き出しに保管できる非常用毛布として売り出し、好評を得ている。

また販路開拓では、プレスリリースの発信し、神戸市に本社を置く大手書店や東急ハンズで取り扱うこととなり、販路拡大の足掛かりとした。平成26年、小規模事業者持続化補助金を活用してホームページのリニューアル、自治体をターゲットにした展示会の出展、営業ツールの作成を支援した。

そして平成27年、真空パッキング技術そのものを提供する新サービスを開発するため、2回目となる持続化補助金を活用。翌年は、同社以外の毛布などに対しても応用可能とするため、3回目となる持続化補助金を活用した。

こうした結果、支援開始当時の平成24年4月の決算に対し、直近決算で売上高42.4%増、経常利益3700万円増と



グッドデザイン賞を受賞した防災用毛布

なり、売上高の増加、利益率の向上を実現。経営改善の努力と売上高および収益性が回復したことから、財務改善に向けて公庫に支援を要請。特別貸付及びマル経融資もあっせん。さらに官庁向けの営業体制が強化されたことにより、大口の防災用毛布のリパックも受注した。

同社の商品やサービスは、社会的有為性も高く、今後、販路拡大の可能性は大いにある。難局に立ち向かい成長してきた後継者たちが中心となって、作成した成長戦略マップを基に、さらなる飛躍が期待される。

支援の経過

期間	支援内容
H24年10月	ヒアリング、経営革新計画・事業計画の策定支援
H25年3月	経営革新計画承認
6月	ものづくり補助金採択
H26年～	持続化補助金採択
H29年8月	金融支援(公庫)、特別貸付及びマル経

会社概要

会社名：足立織物株式会社
 住所：兵庫県多可郡多可町中区安楽田511
 電話番号：0795-32-0437
 URL：https://www.atec1945.co.jp/
 代表者名：足立利信
 創業年：昭和25年
 従業員数：9名
 商工会名・担当者名：多可町商工会・後藤泰樹